

## (株)苦東 第12回経営諮問委員会議事録

1 日 時 平成20年5月21日(水) 10:30~11:30

2 場 所 札幌市中央区北3条西4丁目1 日本生命札幌ビル  
日本政策投資銀行北海道支店 大会議室

3 出席者 10名中9名出席

4 議題及び議事要旨

(1) 最近の苦東を巡る状況について

19年度は光生アルミ北海道を含め4件分譲契約を締結したこと、また、臨海臨港地区で総合物流ターミナルゾーンの造成・基盤整備などについて説明がなされた。

(2) 平成19年度決算見込みについて

用地の引渡しは2件9.2haとなり、売上高約21.3億円、営業利益約2.9億円、経常利益が約3億円となったことについて報告がなされた。

(3) 内部留保と株主還元について

平成19年度決算見込みを基に試算した結果、事業運営に必要な資金及び臨海臨港地区基盤整備資金等を留保した上で、746百万円(600円/株)の株主還元を行いたい旨説明がなされた。

(4) 第3次中期目標の達成状況と第4次中期目標(案)について

第3次中期目標では、分譲面積目標70haに対して30haに留まったが、総額13億6千万円の株主還元を実施したこと。第4次中期目標は、①用地分譲促進(40a)、②計画的な基盤整備、③収益確保と株主還元、を目標に掲げたことの説明があった。

(5) 平成20年度事業計画等について

20年度は、分譲目標は、総売上高18億円、経常利益3億円を目指すとともに、株主還元についても継続していく旨報告された。

(6) 自己株式の取得について

株式の売却を希望する株主からの買取手段を確保し株主の安定化を図るため、自己株取得を行いたい旨の説明があった。

これらの説明を受けて、次のような件に関し意見交換があった。

- 安定的な収入と経常的な費用とバランスに留意して今後も経営を行って欲しい。
- 会社が今後の開発を進めるためにある程度裁量をもって経営に当たることが必要である。このためにはある程度の資金が必要となるが、今回必要資金を留保できたこ

とは会社経営にとって望ましいこと。

- 第4次中期目標においては、北海道経済の牽引役のみならず日本経済をも牽引する役割を苫東が果たすという、大きな理念を示して欲しい。
- 自己株式取得については、株主等に十分説明し理解を得ることが大切。
- 今年7月の洞爺湖サミットでは環境問題が重要なテーマとなる。今後、環境エネルギー問題のパラダイム転換が起こってくることが予想されるので、苫東もこれをしっかり受け止め、より輪郭をはっきりさせて重点戦略を構築していくことが重要。
- 航空機産業はポスト自動車産業。その誘致・振興に当たっては、地場のアカデミズムとの連携が重要なファクターになる。大学等との情報の交換などを踏まえ企業にアクセスしていくことが課題。
- 国際コンテナターミナルの東港区への移転は、苫東開発を考える上で重要な要素。全力で取り組んでいく。
- 広大な用地を有する苫東の土地利用について、考え方を整理して分譲や賃貸等様々な活用を行って欲しい。

以 上